

切断の諸相

- 解体現場での経験を通して -

早稲田大学 伯耆原 洋太



『2011-2014. 全 33 現場での記録』

0. 端緒

大学二、三、四年生の春休みの期間、計8ヶ月の間で土木工務店に所属し、解体現場でのアルバイトを行った。戸建て住宅の全解体を主に、全33の現場の解体に関わった。設計に携わっていく人間として、その体験を通して強く感じたのは、場所が失われる事への焦りと共に、次なる『場』を造り出す契機としての『解体』の可能性だった。

1. 経験

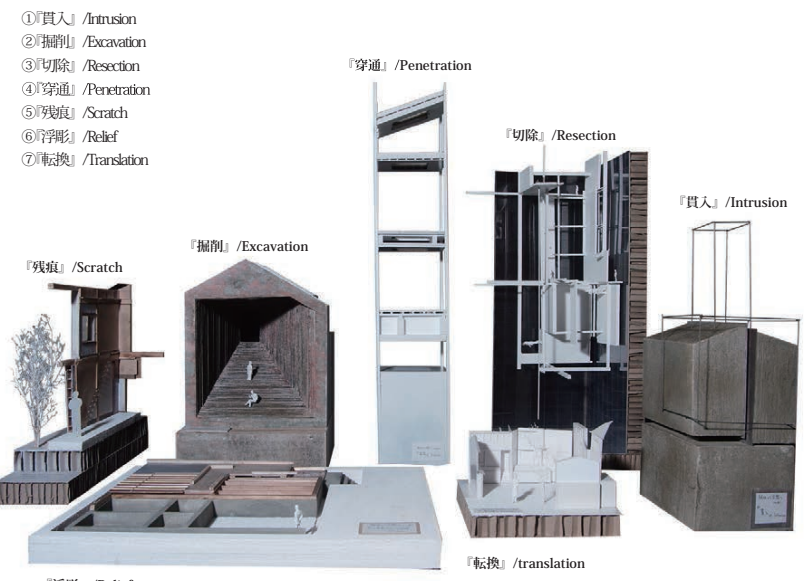
都市における生産、開発、消費、成長が飽和点に達した転形期の現在において、自身の経験を通した、構築行為・生産行為の原初的地平として「解体」を捉え直し、既存の「都市」「建築」「空間」を『切断』することで新たな価値、関係を生み出す本質的手法を模索する事を目的とする。



『2011-2014 解体現場切斷片組成図』

2-a. 経験から空間へ：「空間切断」モデル抽出

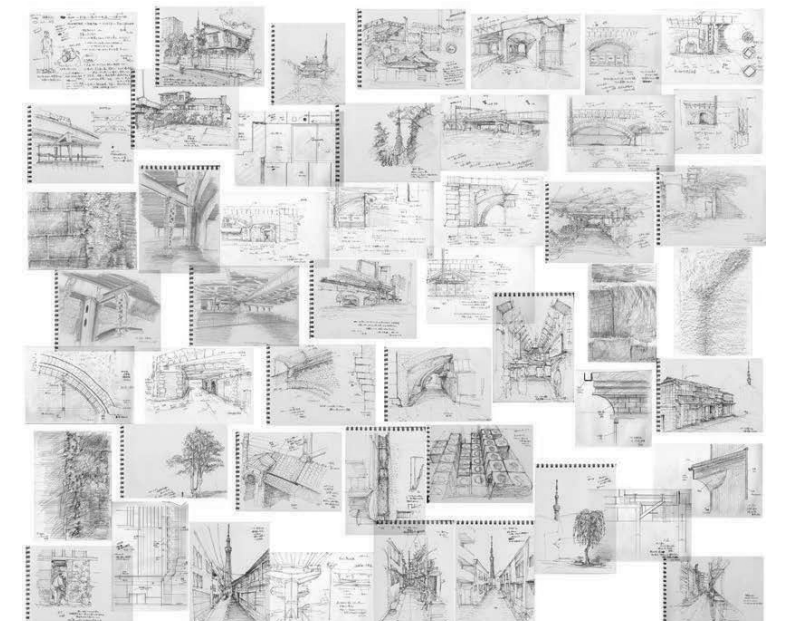
現場での経験によって、住居の「解体過程」に潜んでいる原初的な空間像を知覚した。この知覚を基に、解体過程中的「切断行為」とその空間を抽出し、模型化を行う事によって、空間を捉える視点とする。



『解体行為から空間へ 七つの model』

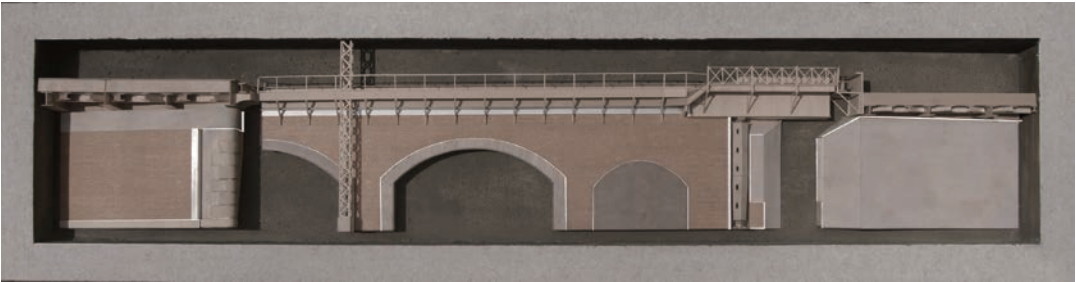
2-b. 経験から都市へ：「都市切断面」採集

解体時に現れる断面は、周囲とのズレ、分裂、剥離、タイムラグとなって露出する。機能の飽和点を迎えた「場所」を再構築する契機として「切断面」を定義し、都市において採集を行う事によって、都市を捉える視点とする。



『都市切断面採集』

Case1. 『昇華する切斷』 残余下の歴史遺構



▲Phase1 1/30 Elevation relief model

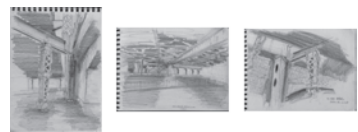


▲Phase2-3 1/50 Section Model

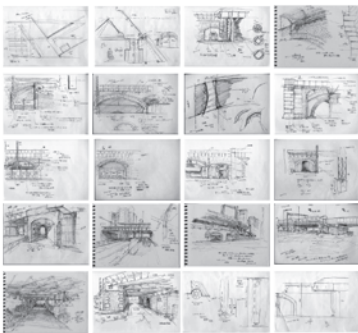
切斷面採集時、第一京浜を沙留方面から新橋駅への道程の中で思わず脚を止めてしまった濃密な空間の一画。新橋レンガアーチ高架橋。明治初期に建てられたものが奇麗そのままに保存されている訳ではないが、レンガ、鉄骨、RC、石の素材ひとつひとつの内部に東京の生命を強く滲ませ、凝縮された近代化過程そのものが場を作る。

そして現在駅大規模改修工事、駅前再開発、新橋・虎ノ門再開発という3つの新たな計画がこの一画を取り囲むように進行している。

交錯する場の変容の内に残り残された歴史遺構を切斷面として捉え、歴史遺構としての保存と補強というリアルな問題性に対しての提案を行う。



▲残余下にある濃密な空間のスケッチ



▲実測とスケッチ 多様なマテリアルと光



△Phase1-1 既存の残り残された歴史遺構・新橋レンガアーチ高架橋



△Phase1-2 素材の接合部に足切り材を挿入し、素材を浮彫にする



△Phase2-1 浮彫になった素材の背後の軸をアーチ内部へ引き込む



△Phase2-2 軸に沿って貫入された壁柱が全平力を制御する



△Phase3-1 次の場との内視面としての原天井を挿入

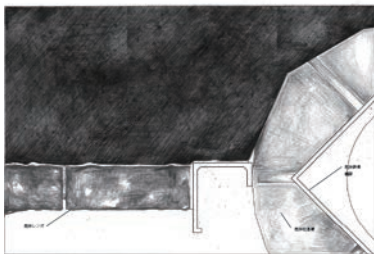
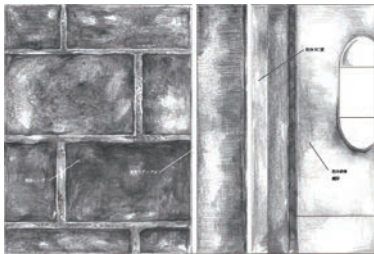


△Phase3-2 諸内視面による進歩者を受け入れる平層の空間が展開する

▲Diagram



▲素材と素材、時代と時代の接合部のフロタージュ

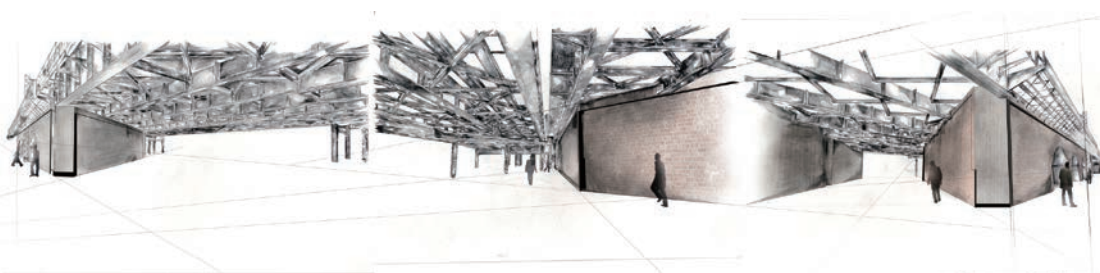


▲既存のマテリアルを浮彫にする見切り

Perspective



▲歴史遺構の深層に形成される街路空間



▲次なる進歩者の視点から

Case2.『接触する切断』 空飛ぶ路地

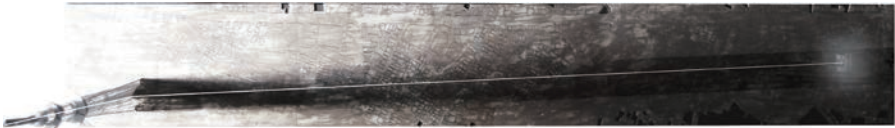


▲1/30 Splited Elevation model



切断面採集

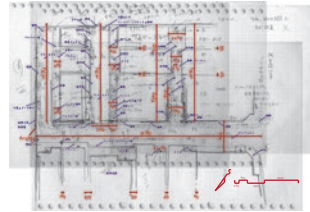
切断面経年時、奥身向開発と京成線の高架化工事に隣接し、取り残されたような長屋群の一面を発見した。路地の抜けからはスカイツリーが望める。
現代の新たな都市インフラとしてのスカイツリーと関東大震災後から形成された老人達の大地に根付いた生活との間のズレを切断面として捉える。
空間、スケッチ、ヒアリング、視覚化を行い、路地を骨格とした生活様式と共に、空き家、空き部屋、孤立化する老人の姿が浮彫になった。



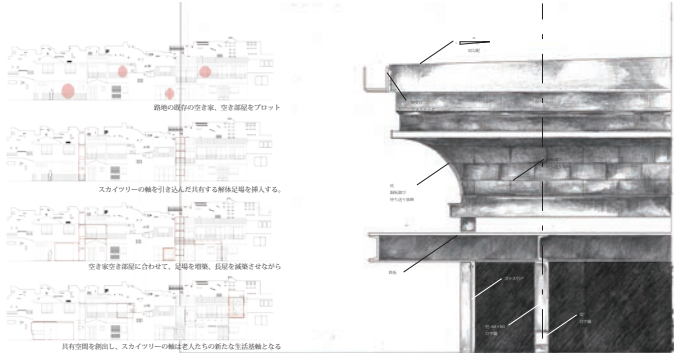
▲Site model 1/1000



▲路地立面展開実測 / スケッチ図



▲路地平面実測



▲Diagram

▲既存と新築 二つの庇 詳細図

Perspective



▲大きな流れと接触する老人達の新たなフレーム



▲拡張する立体路地



▲日常の小さな行為を都市へと接触させるフレーム

Case2.『接触する切断』 空飛ぶ路地

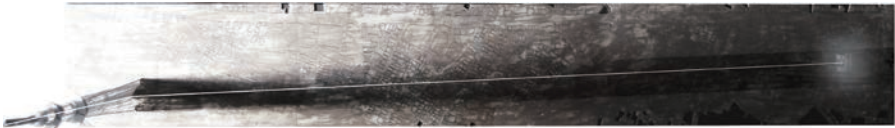


▲1/30 Splited Elevation model



切断面採集

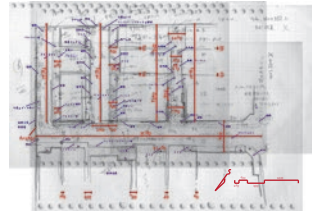
切断面経年時、奥身内開発と京成線の高架化工事に隣接し、取り残されたような長屋群の一面を発見した。路地の抜けからはスカイツリーが望める。
現代の新たな都市インフラとしてのスカイツリーと関東大震災後から形成された老人達の大地に根付いた生活との間のズレを切断面として捉える。
空間、スケッチ、ヒアリング、視覚化を行い、路地を骨格とした生活様式と共に、空き家、空き部屋、孤立化する老人の姿が浮彫になった。



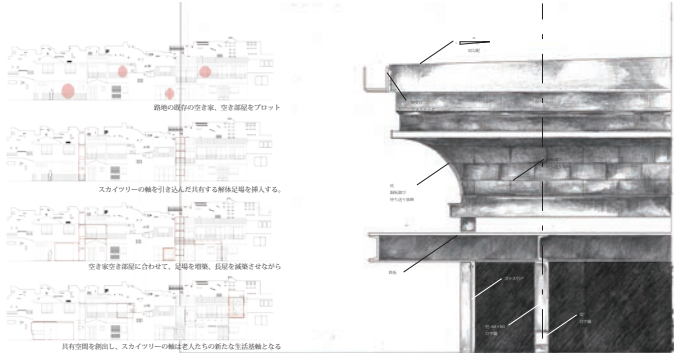
▲Site model 1/1000



▲路地立面展開実測 / スケッチ図



▲路地平面実測



▲Diagram

▲既存と新築 二つの庇 詳細図

Perspective



▲大きな流れと接触する老人達の新たなフレーム



▲拡張する立体路地



▲日常の小さな行為を都市へと接触させるフレーム